

どない.) その理由は, カルボニル基の C の δ^+ 性が OH 基の非結合電子対によって “中和” されるためです.

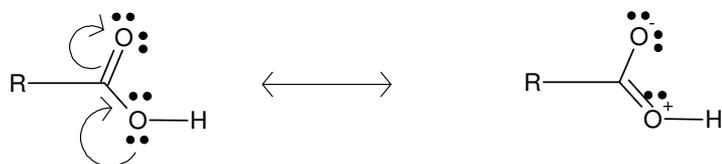
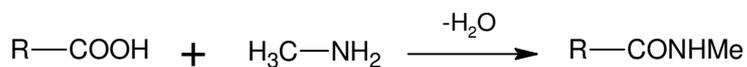
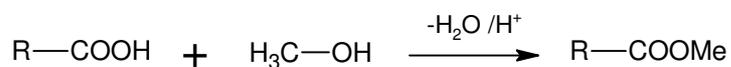


図 3. カルボンサンの C=O の π 分極は OH の非共有電子対で “中和” される.

その他の有用な反応

アルコールとの脱水反応でエステルを与える. アミンとの脱水反応でアミドを与えます.



三塩化リン (PCl_3), 五塩化リン (PCl_5), 塩化チオニル (チオニルクロリド (SOCl_2)) と反応してアシルクロリド (RCOCl) を与えます. アシルクロリドは, アシル化合物の合成に汎用されます.

